

## 第5回常滑市地域公共交通協議会

### 1 開催結果

日 時 2023年7月14日(金)9時20分～11時20分  
場 所 常滑市役所 3階委員会室  
出席委員 別添出席委員名簿を参照

### 2 議事概要

#### (1) 協議事項

##### ① 2022年度決算について(資料1)

- ・2022年度決算について説明。
- ・監事(土方委員)から、決算審査の結果について報告。

#### 【採決】

**原案を承認(異議なし)**

##### ② 地域公共交通計画の基本方針(素案)・目標(素案)について(資料2)

- ・これまでの協議会での議事や、アンケートなどの調査結果にもとづき、「計画書の形」で素案を提示し、説明。
- ・計画の目的として2月の第3回交通協議会でとりまとめた「将来の姿」について、上位計画である第6次常滑市総合計画の「目指す姿」との関係性を整理。
- ・4項目の「将来の姿」を、「目指す姿」の実現に向けた公共交通における基本方針として位置づけた。
- ・具体的に記載している項目について、委員から意見を募集する。
- ・委員からの意見を踏まえて、基本方針(案)・目標(案)をとりまとめ、10月開催予定の第6回交通協議会でお示しする。

#### 【主な質疑応答】

Q. 公共交通は大きな動脈のようなものだけでは、末端の「毛細血管」までいきわたらない。そういったところまで移動を確保していくため、住民同士の協力などの施策も検討しているのか。

(事務局(企画課))

- ・市民アンケートでは、住民による輸送について不安に思う意見が多く見られた。
- ・道路状況などから既存の公共交通が成り立たない地区があるのも事実だが、不安が解消されなければ、利用してもらうことは難しい。
- ・計画期間の5年間でどこまで検討を深められるかはわからないが、住民による輸送について、実現する場合に必要な不安解消の手法などは検討したい。

Q. 安全・安心な公共交通を考えていくと、持続可能性の観点から、誰がどのように負担するかといったことは避けることができないと思うが、今回の素案では、関連する記述が少なく感じるがどうか。

(事務局(企画課))

- ・持続可能性という点で、コストは非常に重要な観点と認識している。
- ・一方で、運賃収入を得たとしても、すぐにコストが回収できるというわけではなく、設備投資や手続きなどのコストもかかってくる。
- ・乗降に時間を要したり、乗り方が分からなかったりすることも考えられる。
- ・単純に金額だけを見るのではなく、お出かけが増えることによる波及効果全体を踏まえて、総合的に判断することが必要と考えている。
- ・素案に記述が少ない点については、対応を検討したい。

Q. 市民アンケートでの反応はどうだったか。

(事務局(企画課))

- ・自由意見の中で色々いただいた。
- ・運賃に抵抗がある方がいる一方で、持続可能性について不安を持っている声も見受けられた。
- ・運賃を得て、環境整備や利便性向上に取り組んでほしい、といった意見もあり、両論あるようだった。

Q. ネットワークのイメージ図について、生活と観光の移動の関係はどうか。

(事務局(企画課))

- ・常滑市を中心において、各地とのネットワークを描いた。
- ・市内外にとらわれず、各地区の生活に関係している地域を拠点として丸を付けている。
- ・観光客の人流がイメージには落とし込めていない部分があるため、対応を検討したい。

## 【採決なし】

### ③ 地域公共交通計画に定める事業の検討について（資料3）

- ・今後事務局で地域公共交通計画に定める事業(素案)をとりまとめるにあたり、委員から意見を募集する。
- ・委員からの意見を踏まえて、交通機関ごとの役割分担や事業について素案をとりまとめ、10月開催予定の第6回交通協議会でお示しする。

## 【主な質疑応答】

Q. 利用者目線で、という部分は利用者委員が、事業者目線で、という部分は事業者委員が意見を提出するものか。

(事務局(企画課))

- ・特に制限はなく、どちらの委員も、それぞれの立場だったら、という見方に立って考えたとして、気づいたことやご意見をいただきたい。

## 【採決なし】

### (2) 報告事項

#### ① 今後の予定について(資料4)

- ・ 今後、計画策定までの流れを説明。
- ・ 10月に第6回、12月に第7回の交通協議会を開催予定。
- ・ 12月までに地域公共交通計画(案)をとりまとめ、交通協議会の承認のうえ、1月以降にパブリックコメントを実施。
- ・ 2025年春に予定されている半田市立半田病院の移転に向けた交通網の事前検討を、下半期頃から始める。

#### ② 市民ワークショップの開催結果について(資料5)

- ・ 6月10日(土)に市民ワークショップを開催。
- ・ 参加者は
  - 1) 4月に実施した市民アンケートの回答者のうち、希望した者
  - 2) 民生・児童委員
- ・ 中学校区ごとに分かれて、地区の公共交通について意見やアイデアを出し合った。

#### ③ コミュニティバス グルーンの利用実績について(資料6)

- ・ 利用者数は増加傾向が続いているが、一部路線では横ばい傾向で需要が頭打ちの可能性はある。
- ・ 路線ごとや平日/休日ごとの利用傾向が見えてきている。

#### ④ バスロケーションシステムの導入について(資料7)

- ・ 7月からバスロケーションシステム「バス予報」を導入。
- ・ 市広報でのアナウンスのほか、停留所にも掲出している。

## 【質疑応答】

Q. グルーンの実績の乗降カウンターシステムはどのようなものを利用しているか。また、停留所ごとの乗降の他に、ODも集計できるのか。

(事務局(企画課))

- ・ ユニ・トランド社のシステムを、交通計画策定のための調査の一環として導入している。
- ・ 車両の前後にある乗降口にカメラを設置して、乗降する人数を停留所ごとにカウントしている。
- ・ 乗車停留所と降車停留所を紐づけ、「どこで乗って、どこで降りたか」という形でのカウントはできない。

以上